



確かな学力の向上をめざして【7月①】

【教育DX】子ども達の主体的な学びをめざして Part I

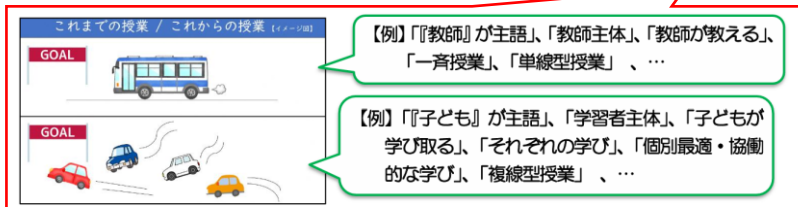
子どもに委ねる視点を踏まえた単元構想

これから一層求められる授業のイメージについて、令和6年12月号の本紙（★）でイラストを基にしてお伝えしました。

★<https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1387855/r6tg12.pdf>



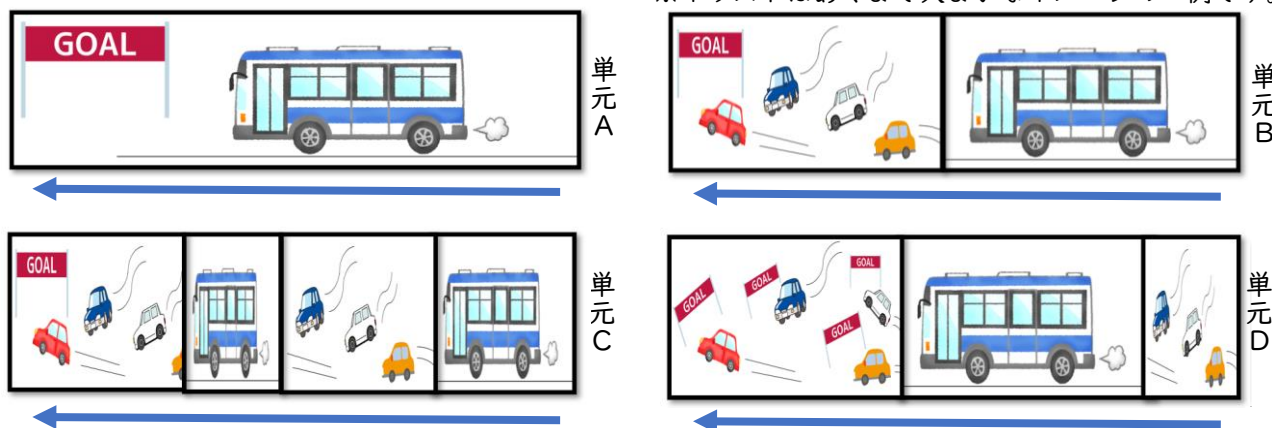
子ども達一人一人が運転手（学習の主体者）となり、それぞれが学び方や課題等を自ら選択しながら、それぞれのペースでゴールをめざす。そのような学習者主体の学びのイメージに近づくには、子ども達が徐々に教師の手を離れて、自らの課題解決や活用・探究へと向かっていくような流れを、まずは教師が明確にイメージできるかどうかを確認しました。これを踏まえて今号では、単元全体をどのようなイメージで構想していくかについて、同様のイラストを使って考えてみましょう。



【問】イラストは、単元全体の学びの進め方をイメージしています。4種類のイラストをもとに、子ども達の学びが各単元内でどのように進んでいくのか考えてみてください。



※イラストはあくまで大まかなイメージの一例です。



子ども達は単元の全てを自走できるわけではありません。そこで一つカギになるのが、教師主導・一斉指導による授業イメージ（バス型）のあり方です。子ども達がそれぞれの課題解決に向かって自走するためには、そこで必要となる様々な力（知識や技能、学び方や友達との協働の仕方、学びに向かう心等）をいかに習得させておくかが大切です。子ども達に学びを委ねるための準備やベースづくりを、教師が主となって行っておくということです。つまり、バス型と車型、両方の授業イメージが必要で、単元内でそれらを意図して使い分けていく視点が必要です。



Point

★子どもに委ねる視点からの教材研究と単元構想を

単元内のどこをバス型（教師主導・一斉型）で行うべきか？ 子ども達に委ねられるのはどの部分か？ 単元のねらいを考えると何をどのように委ねるのがよいか？ そうする意図は？…

このような視点から教材研究を行い、単元全体を構想してみることが大切です。これは、1単位時間の授業を構想する時も同じです。

※教科書を読み解くと、実はこうしたことを見抜くためのヒントが掲載されている場合があります。





確かな学力の向上をめざして【7月②】

【特別支援教育】子どもたちの気持ちに寄り添う支援のために

教室の中で、「思い通りにならないとかんしゃくを起こして友達とトラブルになってしまう」「こだわりが強く、特定の行為がやめられない」「読み書きに課題がある」等の子どもの指導・支援について、悩んだり困ったりしていませんか。一見すると同じ行動であっても、背景となる要因には様々なものがあり、子どもが違えば、背景の要因も違ってきます。子どもの気持ちに寄り添いながら、困難さの軽減につながる取組について、一緒に考えてみましょう。

【感情のコントロールが苦手かな?と感じた例】

課題となる子どもの状況



Aさんは、授業中に何をすればよいかかわからず、イライラすることがあります。また、気に入らないことがあるとすぐにかんしゃくを起こします。B先生がなだめると余計に興奮して「うるせえなあ」などの乱暴な言葉を繰り返します。

「なぜ」このような行動をするのでしょうか。

要因や課題を整理する



視点	考えられること
環境	・学習環境では、音や光などの刺激が強くなっていないか ・食事や睡眠、排せつなどの欲求が満たされているか。 ・学習活動への見通しが持てないなど、不安なことがないか。 ・周囲の子どもとのトラブルがないか。 ・子どもの特性に応じた手立ての過不足がないか。
子どもの感情	・注目してもらいたい、かまってもらいたい気持ちを抱いていないか。 ・早く活動をしたい、活動をやりたくない気持ちを抱いていないか。 ・予期していたことと異なる、思い通りにならない状況が生じていないか。
積み重ねた子どもの感情	・過去にあった嫌なことをひきずっていないか。 ・自分の行動を振り返ることに困難さがないか。 ・自分のことを著しく低く評価していないか。
行動の起こる時間や場所	・どんな場所で起きやすいか。 ・どんな時間帯に起きやすいか。 ・穏やかに過ごせているときは、どんな時か。

他にもあるかもしれないよ

穏やかに過ごせているときに、改善のヒントがあるかも！

校内委員会等で支援・指導方針の検討

担任だけでなく、子どもに関わる複数の教師等で確認することで、より客観性が高まります。特別支援教育コーディネーターや特別支援教育主任はもちろん、学年部・学年団や教科担当者で情報を共有したり授業の様子を見合ったりするなど、校内で連携して検討しましょう。

必要に応じて外部機関に支援を求める

支援・指導の見直し後、解決策が見つからないときには、LD等専門員などへの依頼相談や特別支援学校の「センター的機能」を活用しましょう。医療、福祉などの外部専門家につながることもあります。

Point

★まずは校内で情報の共有と指導体制、支援内容の検討をしましょう。

学校全体で支援や指導方法についての情報を共有し、その子どもに応じた配慮や支援を行うことで、あらゆる活動に子どもが無理なく参加できるようになり、またその子どもへの手立てや工夫が、他の子どもたちにとって有効なものとなることもあります。

相談しやすい雰囲気づくりが大切だね！

